第 11 回大阪大学専門日本語教育研究協議会

–学習者オートノミーを育む言語学習とその支援–

報告書

大阪大学　国際教育交流センター
2018 年（平成 30 年）2 月 16 日

第 11 回大阪大学専門日本語教育研究協議会

目　次

プログラム　1

背景および趣旨　2

講演１：学習者オートノミーを育てる教育実践：これまでの蓄積と新たな展開
大阪大学大学院文学研究科 教授
青木 直子　3

講演２：神田外語大学セルフアクセスセンターのこれまでの活動と今後の展望：
生涯にわたり学び続ける力
神田外語大学セルフアクセスラーニングセンター
主任ラーニングアドバイザー
ワトキンス 聡子　9

報　告：オンライン自律学習支援サイト「OU 日本語ひろば」の構想について
大阪大学国際教育交流センター
日本語教育研究チーム　教授
義永 美央子　16

全体討論　22

写真： 協議会風景　26

付録： 過去の大阪大学専門日本語教育研究協議会の開催状況　28

第 11 回大阪大学専門日本語教育研究協議会
―学習者オートノミーを育む言語学習とその支援―

日時：2018 年 2 月 16 日（金）13:00～17:00（受付 12:40～）
場所：大阪大学吹田キャンパス　IC ホール 2 階 講義室 5 & 6
主催：大阪大学国際教育交流センター

プログラム

総合司会　国際教育交流センター 特任准教授　金 孝卿

13：00～13：10　開会の挨拶　国際教育交流センター センター長　有川 友子

13：10～14：10　講演１：学習者オートノミーを育てる教育実践：これまでの蓄積と新たな展開
大阪大学大学院文学研究科 教授　青木 直子

14：10～14：20　休憩

14：20～15：05　講演２：神田外語大学セルフアクセスセンターのこれまでの活動と今後の展望：
生涯にわたり学び続ける力
神田外語大学セルフアクセスラーニングセンター
主任ラーニングアドバイザー　ワトキンス 聡子

15：05～15：20　休憩

15：20～16：00　報告：オンライン自律学習支援サイト「OU 日本語ひろば」の構想について
大阪大学国際教育交流センター日本語教育研究チーム 教授　義永 美央子

16：00～16：10　休憩

16：10～16：55　全体討論：大学における言語学習と学習者オートノミーを考える
司会　国際教育交流センター 准教授　難波 康治

16：55～17：00　閉会の挨拶　国際教育交流センター 副センター長　村岡 貴子

第 11 回大阪大学専門日本語教育研究協議会

―学習者オートノミーを育む言語学習とその支援―

主催　大阪大学国際教育交流センター

背景および趣旨

現在、本学には 2,000 名を超える留学生が在籍し、その多くが日本語学習を必要としています。また、高校時代までを海外で過ごした日本人学生や学籍を持たない外国人教職員・研究員などを含めると、日本語学習を必要とする大学構成員の数はさらに増加します。この人たちは、母語や年齢、専門だけでなく、日本語学習の動機、必要とする日本語のレベルや機能、日本語学習のために使える時間、さらには学習スタイルなど、様々な面で多様性に富んでいます。彼・彼女ら一人一人の日本語学習を支援し、大学コミュニティへの十全な参加を促すためには、いわゆる教室の枠を超えた、新しい学習環境をデザインしていく必要があるでしょう。

一方、近年の教育の目的として、市民性の涵養、そして、主体的に学ぶ姿勢の重要性が指摘されています。自らの行動に責任を持ち、主体的に生きる人を育てるという教育上の大きな課題について、言語教育関係者はどのように貢献することができるのでしょうか。

これらの課題については、近年、学習者オートノミーの研究が理論と実践の両面で多くの知見を提供しています。そこで本年度の専門日本語教育研究協議会では、学習者オートノミーを育む言語学習およびその支援のあり方をテーマとして取り上げ、参加者の皆様と共に考えたいと思います。具体的には、まず、大阪大学大学院文学研究科の青木直子先生に、学習者オートノミー研究の最新の動向と実践方法についてご講演をいただきます。次に、学習者オートノミーの理念に基づく SALC（Self Access Learning Center）を日本国内で先駆的に開設・運営されている神田外語大学での実践の歴史と現状について、ワトキンス聡子先生にお話しいただきます。また、大阪大学国際教育交流センターの義永美央子は、現在本センターで企画準備中であるオンライン日本語自律学習支援サイト「OU 日本語ひろば」の構想と計画について報告します。

協議会の後半では、前半の講演および報告に基づく全体討論を行い、大学における学習者オートノミー育成の可能性について、広く情報共有や意見交換を行う予定です。これらの議論が、学習者一人一人に寄り添う実践の充実およびその理論的根拠となる研究推進の一助となることを願っています。

講演 1

学習者オートノミーを育てる教育実践：
これまでの蓄積と新たな展開

青木　直子

大阪大学文学研究科　教授

学習者オートノミーを育てる教育実践：
これまでの蓄積と新たな展開

青木直子（大阪大学）

学習者オートノミーの定義

学習者が自分自身の学習をコントロールする能力、欲求、自由

Benson (2011), Huang & Benson (2013)

- 能力がなければできない。
- 能力があっても欲求がなければやらない。
- 欲求があっても自由がなければできない。

何をコントロールするのか

- 目標（明日/来週/来月/来年までに、何をできるようにするか）
- 内容（目標達成のために、何を学ぶか）
- リソース（どんなリソースを使って学ぶか）
- 方法（リソースをどのように使うか）
- 評価方法（できるようになったかどうかはどのようにして確認するか）
- 順番（何から学び始めるか、次に何をするか、あとでやることにするのは何か）
- 場所（どこで学習するか）
- 時間（一週間/1日のうち、いつ学習するか、どのくらいの時間学習するか）
- 頻度（毎日やるか、週に何回やるか）

Holec (1985)

- 目的（日本語ができるようになったら、何をしたいか）

Benson (1996)

コントロールするのは計画だけか

計画を実行に移すための工夫

- 計画を忘れない工夫
- タイム・マネジメント（以上２点、コーチングのテクニックから）
- やる気の維持（Ushioda, 1996）

学習活動中のコントロール

- 認知過程
- 物理的環境
- 気持ち
- 他者

学習者オートノミーをどこから見るか

- ポリティカルな視点
  - 学習者が自分の人生の著者になる
  - 責任ある市民を育てる

Holec (1981)

- 心理学的な視点
  - 社会文化理論 — Little (1991, 1996, 2007)
  - ストラテジーの訓練 — Wenden (1991)
  - 情意的側面 — Aoki (1999), Hurd (2008, 2011) Tassinari (2016)
- 生態学的な視点・複雑系理論の視点

Palfreyman (2014), Murray & Lamb (2018)

長年の実践経験と研究からわかったこと

- 学習者オートノミーは育てるものである。
- 学習者オートノミーは何でも1人でするということではない。

フェミニストらの批判（e.g. Mackenzie & Stoljar, 2000）

Little (1991; 1995; 1996, 2007)

- 学習者オートノミーの実践は子どもから社会人まで、どんな年齢でも可能である。
  - 初等中等教育での実践　Dam (1995), Thomsen (2003), Lamb (2000), Kirwan (2014; 2016)
  - 成人移民への言語教育での実践　リトル (2011), Carson (2014), 奥（2016）
- 学習者オートノミーの実践は恵まれた環境でしかできないというわけではない。

Smith, Kucha & Lamb (2017)

- 学習者オートノミーの実践には教師オートノミーが必要である。

Little (1995), Thavenius (1999), Vieira (2000), Aoki (2002), 青木(2006)、Benson (2010), Gao (2017)

学習者オートノミーを育てるための実践の数々

- セルフアクセス
- タンデム学習
- アドバイジング
- 交渉によるカリキュラム
- 交渉による授業計画
- CEFR/JF日本語教育スタンダードとポートフォリオ
- 授業外の学習
- テクノロジーを使った学習
- 言語学習史（LLH）
- ラングージ・カフェ

新たな展開１：複言語主義と学習者オートノミー

なぜ複言語主義と学習者オートノミーは関係があるのか

- 複言語主義：人の言語体験は、「言語」や「文化」という単位で切り離されるわけではなく、複数の言語と文化の相互作用によって新しいコミュニケーション能力が育つ。人は状況と自分の目的に合わせてその能力の適当な部分を取り出して使う。

  Council of Europe (2001)
- 人の置かれた状況や目的は一人一人異なる。したがって、必要な能力も一人一人異なる。
- 自分に必要な能力を身につけるための学習は、自分でデザインするのが手っ取り早い。

Little (2017)

複言語話者を育てるための言語教育に関する5つの提案

1. 能力の程度にかかわらず必要な時に必要な言語が使えるためには、学校で学んだ言語が日常生活の言葉（everyday lived language）になる必要がある。そのためには、言語使用の機会を作らなくてはならない。
2. 授業での言語使用は、学習者が主体的に、自分の興味・関心に基づいた本物のコミュニケーションを行えるようにする必要がある。
3. 授業で目標言語を使うことは重要だが、それと同時に、目標言語の能力不足は、他の言語の能力や語用論的、社会言語的能力で補うという姿勢も大切である。（青木：CEFRのいう一般的能力で補うこともできる。）
4. メタ言語的、メタ認知的内省を促すことも大切。
5. 頭の中でも、実際の言語使用でも、複数の言語が混在しているかもしれないが、目標言語の能力を最大限に伸ばすには、目標言語で頑張る姿勢も大切。特に書くことは大切。自分の選んだトピックで自己表現をすることで、目標言語がアイデンティティの一部となる。

Little, Dam & Legenhausen (2017)もご覧ください。

Kirwan (2014; 2016)

- ダブリンの小学校での実践。家庭の言語が英語ではない生徒が大半。アイルランドでは、小学校からアイルランド語も必須科目。つまり、英語以外の言葉で育った子どもたちは、英語とアイルランド語を学ばなくてはならない。また、5年生からは、ここに外国語科目としてフランス語が入る。Kirwanは、それに加えて、家庭の言語のリテラシーを育てることも目標とした。
- CEFRをもとにした、学習者オートノミーを奨励する実践の中で、保護者の理解と協力をとりつけ、作文などを子どもたちが自分で選んだ2つの言葉で書くように促した。
- その結果：
  - 子どもたちのメタ言語的知識が増えた。
  - 家庭の言語について、親や年上のきょうだいが手伝うことで、より広い学校コミュニティの中でインターアクティブに学ぶ機会が創出された。
  - 英語がL1の子どもたちのアイルランド語を学ぶ動機が強くなった。
  - 2言語だけでなく、知っている言葉すべてで書く子どもが見られた。

新たな展開２：学習者オートノミーとWeb 2.0

このタイトルはCappellini, Lewis & Rivens Mompean (2017)から借用しました。

- 言語学習用アプリ
  - AnkiApp, Memrise, 中国語上手、英語聞き取り王国etc.
- 言語学習用サイト
  - Duolingo, Busuu, Babbel, BBC Languages, 声江、げんきな自習室、東京外国語大学言語モジュール etc.
- 言語学習用SNS
  - Lang-8, HiNative, Italki, HelloTalk, tandem, etc.
- 一般のSNS、インターネット電話、検索システム、翻訳サイト　etc.

Reinders & White (2011)

最近の若者のやっていること

- 日本のアニメを見る
- 日本のドラマを見る
- Skypeで日本人と会話する
- Skypeで日本人とチャットをする
- 日本のファッション雑誌を読む
- 星占いを読む
- 日本語のポッドキャストを作る etc.

阪大の学生たちが中国の大学生に聞いた話では

欧（2016）

中国の大学で日本語を専攻する学生に、インターネット上のリソースの利用についてインタビューし、修正グランデッド・セオリー・アプローチ（M-GTA）により分析した。そこからわかったインターネット上のリソースを使うようになるための条件は：

- 日本語の上達のためには、生の日本語と接触することが必要だという考えを持っている。
- 自分の能力の不足、授業内容と自分のニーズとの不一致に気づいている。
- 大学入学前にインターネット上で日本のポップカルチャーと接触した経験がある。
- 日本のポップカルチャーに関心を持っている。
- 日本語学習に使えるリソースとその使い方について情報をもっている。
  - 周囲の他者から情報提供を受ける
  - ほかの外国語の学習経験を利用する
  - 自分で探す

新たな展開３
教室外の学習

Bellingham (2004)

- 中国や韓国からニュージーランドに移民した成人英語学習者に授業外でどのように英語を勉強しているか聞いた。
  - 近所の張の市に出店する
  - 不動産屋のオープンハウスに行く（家を買うためではない）
  - 市役所の相談窓口に問い合わせに行く
  - 家に母語話者の下宿人を置く
  - 電話でクラスメートと毎日１時間話す
  - テレビのニュースを見る
- これはインターネット以前の時代、世代の実践。

スマホが普及した現在では、同じような世代でも、新しい学習方法を使っている
Kukulska-Hulme, 2012, p.11

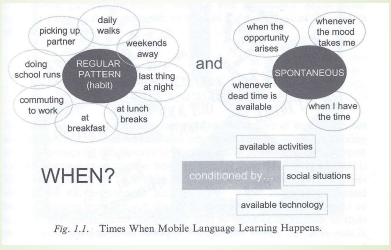


Fig. 1.1. Times When Mobile Language Learning Happens.

Kukulska-Hulme, 2012, p.12

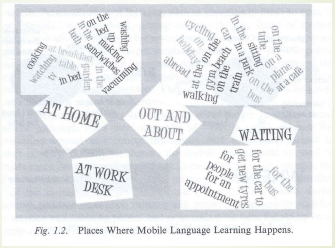


Fig. 1.2. Places Where Mobile Language Learning Happens.

- 授業=特定の場所、特定の時間に特定の人々が、特定の事柄を教える、あるいは学ぶ目的で集まること。授業外=それ以外

ベンソン（2011）

- 「個人の学習を記述しようとすると、１つの場面だけではなく、複数の場面の組み合わせの中での学習を記述することになる」

（ベンソン, 2011, p. 235）

- 「教室学習と教室外学習は区別せずに、一人一人が日常生活の中で言語学習に取り組む様子をもっと自由に調査するほうがよいのではないか」

ベンソン（2011, p. 236）

- 「教室外での学習が広まってきた今日、教師は授業における学習だけに焦点を当てている訳にはいかなくなってきた。（中略）我々は、複数の学習空間、学習の場の存在と価値を認め、それらを包括的に扱わなくてはいけない。」

Murray & Lamb (2018)

新たな展開 4：
学習者オートノミーのための空間のデザイン

なぜ学習空間を考えることが必要か

- 空間を解釈して、自分の学習ニーズに合わせて変えていく自由も学習者オートノミーのうち。だから、学校空間を設計する時には、建築家が思いもよらない使い方をも可能にする柔軟性が必要。

Parnell & Procter (2011)

- リサーチ・アジェンダ
  - 様々な異なる空間がそれぞれどのように学習者オートノミーの発達につながるか。
  - 学習者は、どのように空間を変え、専有し、形作り、学習の場としていくか。
  - 空間の理論と学習の理論の関連をどのように考えたら、様々な空間における学習者オートノミーの発達に関して新たな知見が得られるか。

Lamb & Murray (2012)

- 複雑系としての学習空間
  - システムは複数の相互作用をする要素からなる。
  - それらの要素のコントロールは分散化されている。
  - システムは他のシステムとつながっていて、他のシステムを包含すると同時に、他のシステムの一部でもある。
  - システムや要素は、変化の過程で互いに影響しあっている。（因果関係は一方向ではない。）

Murray& Lamb (2018)

マーリー、宇塚、フジシマ（2016）

- 岡山大学のL-Caféの報告
- 「ソーシャル・ラーニ ング・スペースとは、日本人学生と留学生が集い、友達になり、互いに言語を練習し たり、お互いの文化や習慣について理解しあったりする場所 」（マレー、宇塚、フジシマ, 2016, p. 107）
- 5年にわたって収集したエスノグラフィックなデータを「日本語を上達させたい留学生にとってソーシャル・ラーニング・スペースの利用がどのように有益であるか」という視点で分析 した

- いつ行ってもいつ帰っても、どのくらいの頻度で行ってもいい、言葉を間違えても構わないというL-Caféの特徴が、自分で自分の行動を決める力を学生に与える
- 学びと遊びは一体である
- 日本人学生との社会的ネットワークが発達するにつれて、日本語も上達する
- 学生たちは英語と日本語を時と場合に応じて使い分けるので、留学生と日本人学生の目的がコンフリクトを起こすことがない
- レポートなどのために助け合うことで、学習者オートノミーが育つ
- 学生たちは、言葉だけでなく、互いの文化や異文化一般についても学ぶ
- L-Caféがキャンパス外のコミュニティへの橋渡しとなる

Murray & Fujishima (2016), Murray (2017), Murray, Fujishima & Uzuka (2018)などもご覧ください。

これからeラーニングのプログラムを作る時に考えたほうがいいと思われること

- 教材を作る必要はもうないのではないか
- どのようなリソースがどこにあり、それはどんな目的でどのように使えるかという情報が検索できるようにすることのほうが重要ではないか
- コントロールの分散化をどのように実現するか
- 学習者をサポートするシステムをどう作るか（e.g. アフォーダンスとしての環境、アドバイジング、アイデンティティの構築）
- 学習者同士が出会える場をどのように作るか
  バーチャルな場、物理的な場
- 市販のアプリや言語学習サイトなど、すでに巨大なポータルが存在する中で、個別の教育機関に利用者を限定したポータルはいらないのではないか
- 何が「正しい」情報であるかを判断する権威は誰が持つべきなのか

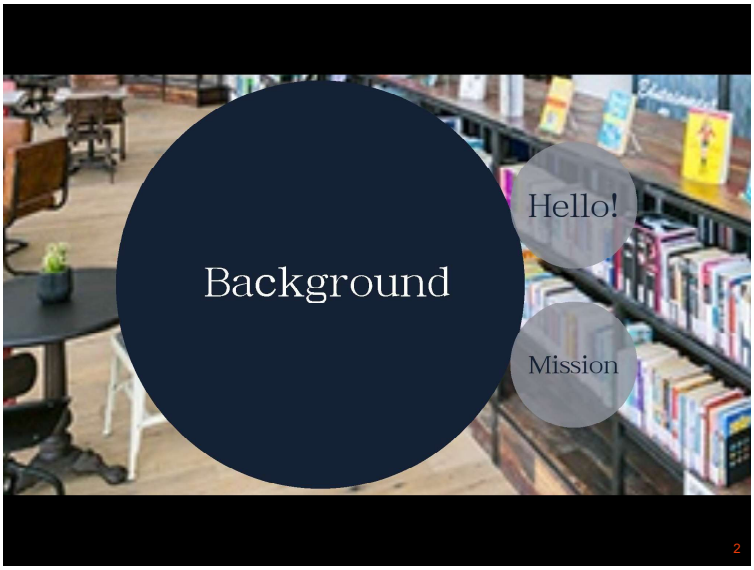
これで終わりです。ありがとうございました。
参考文献のリストは以下にアップします。
http://www.let.osaka-u.ac.jp/~naoko/home.html

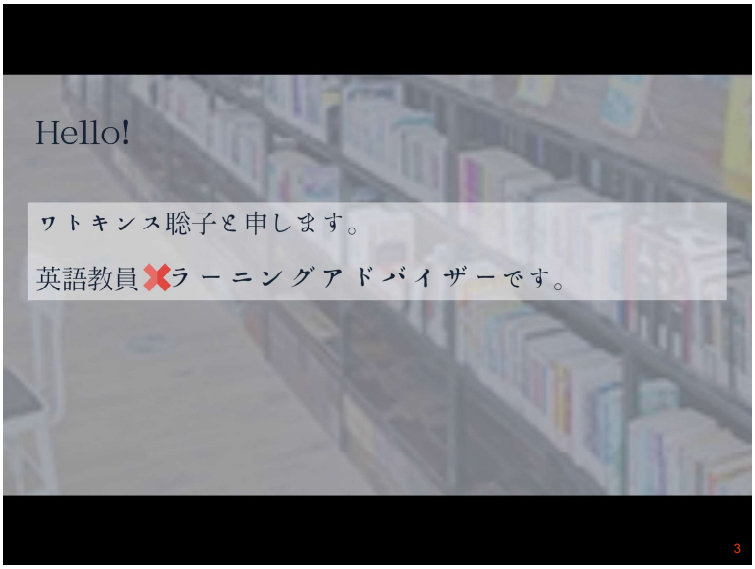
講演 2

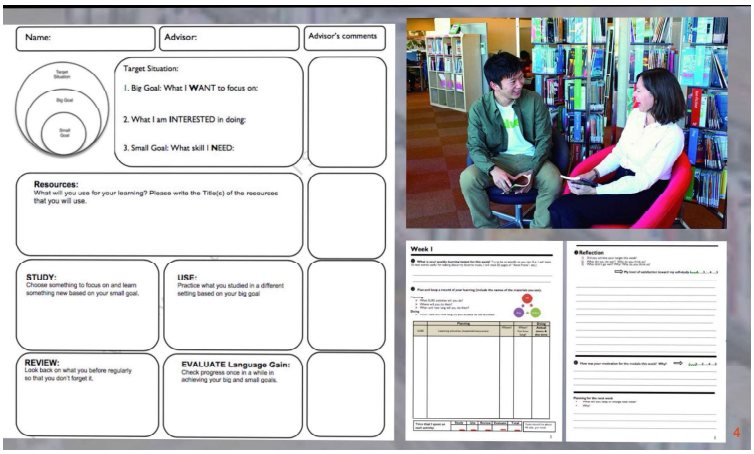
神田外語大学セルフアクセスセンターのこれまでの活動と今後の展望：生涯にわたり学び続ける力

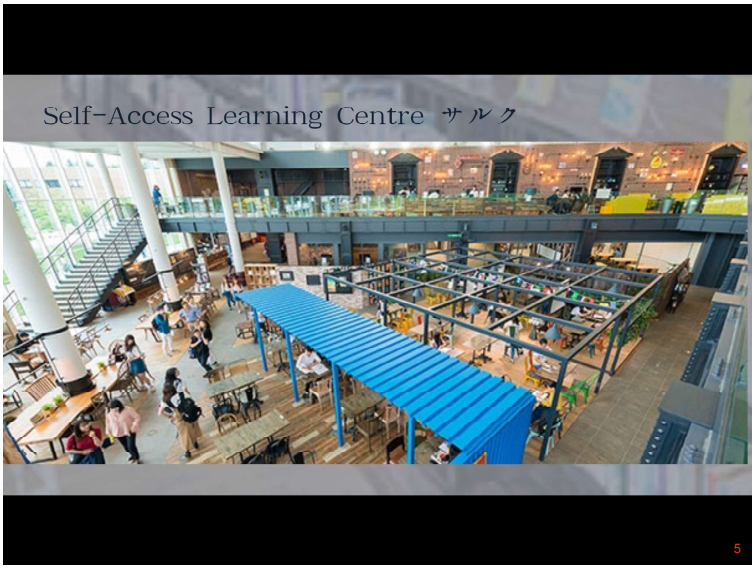
ワトキンス　聡子
神田外語大学セルフアクセスラーニングセンター
主任ラーニングアドバイザー

Future Visions
Learning Communities & Events
Research
Resource
Advising
Curriculum
Background
神田外語大学
セルフアクセスセンター
のこれまでの活動と今後の展望
生涯に渡り学び続ける力


Background
Hello!
Mission
2


Hello!
ワトキンス聡子と申します。
英語教員✖ラーニングアドバイザーです。
3


Name:
Advisor:
Advisor's comments
Target Situation:
1. Big Goal: What I WANT to focus on:
2. What I am INTERESTED in doing:
3. Small Goal: What skill I NEED:
Resources:
What will you use for your learning? Please write the Title(s) of the resources that you will use.
STUDY:
Choose something to focus on and learn something new based on your small goal.
USE:
Practice what you studied in a different setting based on your big goal
REVIEW:
Look back on what you before regularly so that you don't forget it.
EVALUATE Language Gain:
Check progress once in a while in achieving your big and small goals.
Week 1
Reflection
4


Self-Access Learning Centre サルク
5

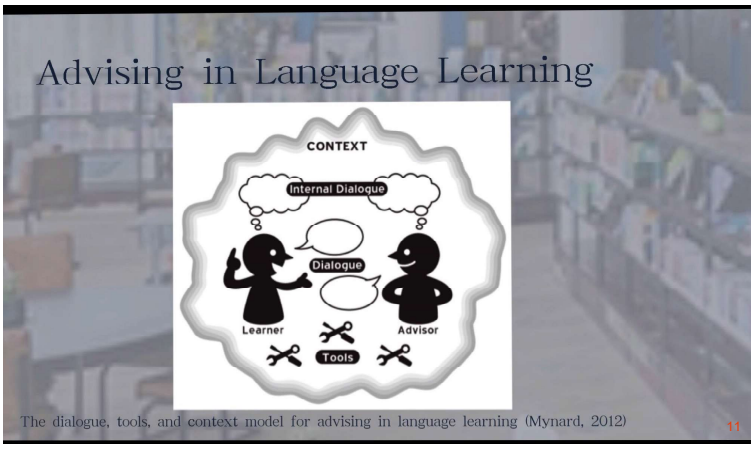
Mission
自己主導型の言語学習とその内省の促進を通した生涯にわたる学習者オートノミーの育成
・コミュニティー、スペース、リソースの活用
・自律学習や協働学習の機会の増加
・自律学習のプロセスを自分でモニター
・言語学習の目標を達成
・言語を使うことへの自信
・リーダーシップスキル
6

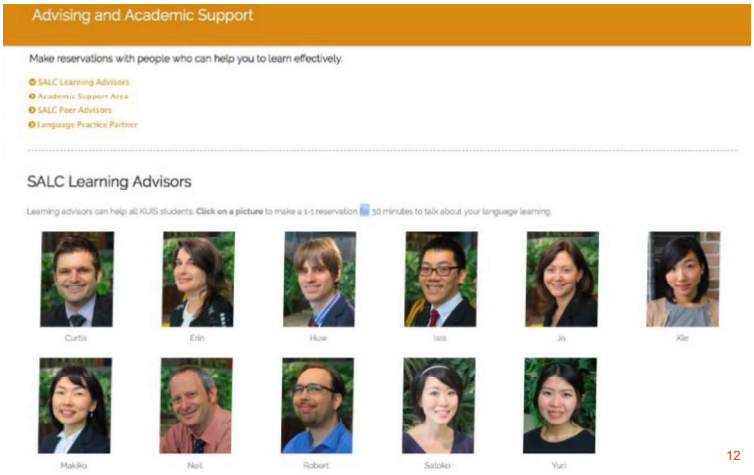
Curriculum
Learning Outcomes
Different Courses
7

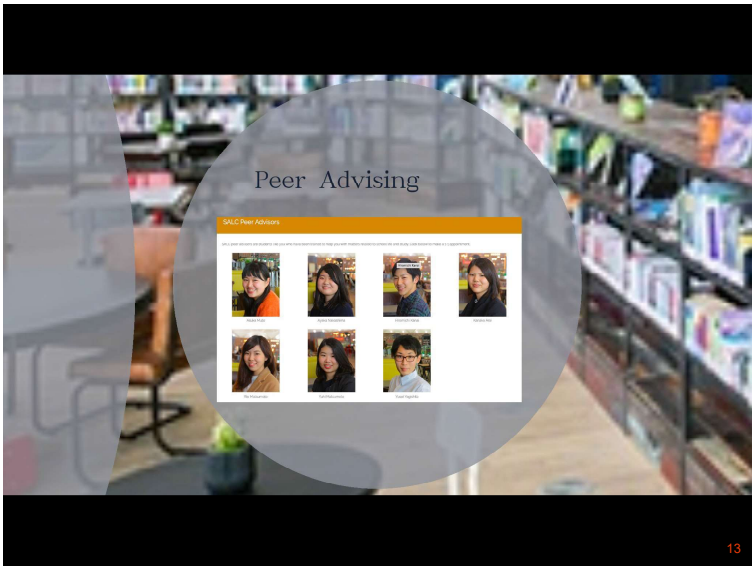
Learning Outcomes
Setting & Reviewing GOALS
Selecting, Using & Evaluating RESOURCES
Identifying, Using & Evaluating STRATEGIES
Making, Implementing & Evaluating a LEARNING PLAN
Evaluating LINGUISTIC GAIN
8

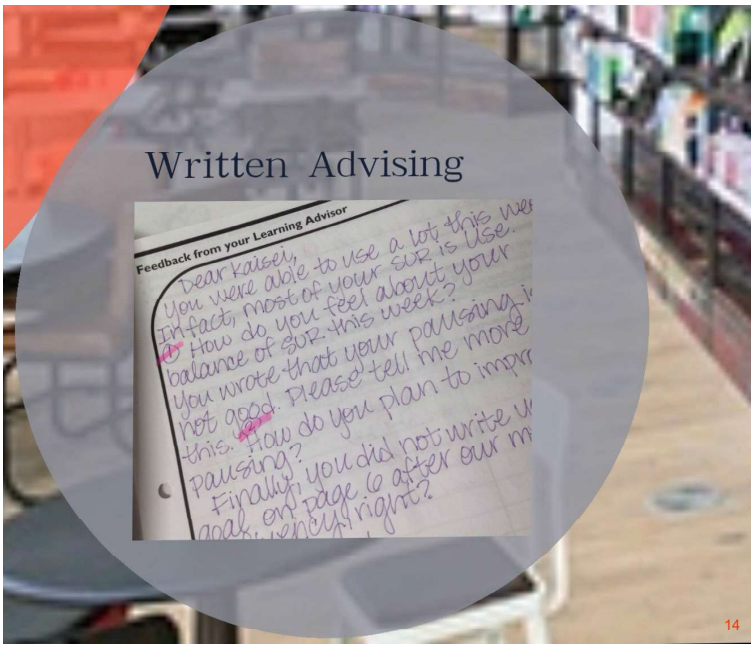
Different Courses
・ELM/ELLC 1&2
・MOOC（オンライン大学講座）
・テレタンデム
9

Advising
Advising in Language Learning
Face to Face Advising
Written Advising
10

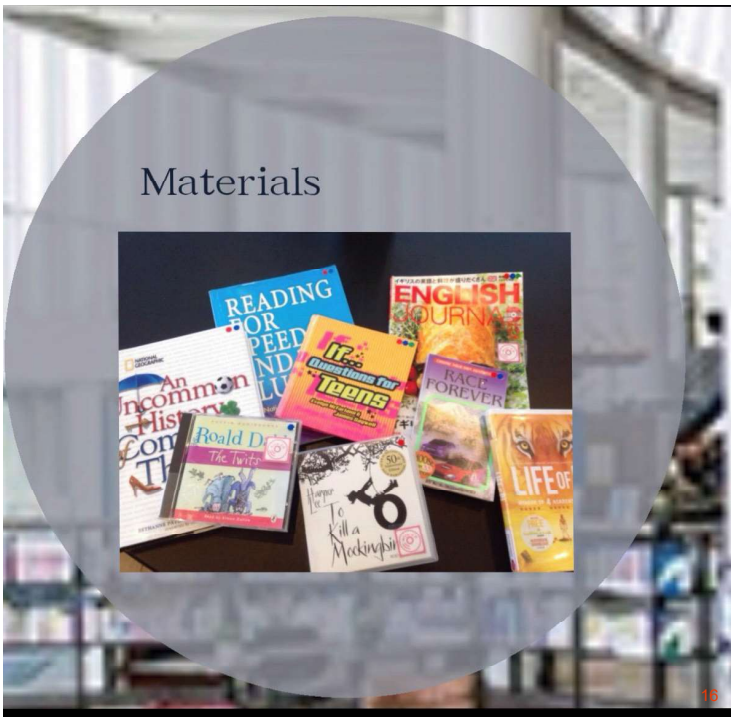

Advising in Language Learning
CONTEXT
Internal Dialogue
Dialogue
Learner
Advisor
Tools
The dialogue, tools, and context model for advising in language learning (Mynard, 2012)
11


Advising and Academic Support
Make reservations with people who can help you to learn effectively.
SALC Learning Advisors
Academic Support Area
SALC Peer Advisors
Language Practice Partner
SALC Learning Advisors
Learning advisors can help all KUIS students. Click on a picture to make a 1-1 reservation for 30 minutes to talk about your language learning.
Curtis
Erin
Huw
Isra
Jo
Kie
Makiko
Neil
Robert
Satoko
Yuri
12

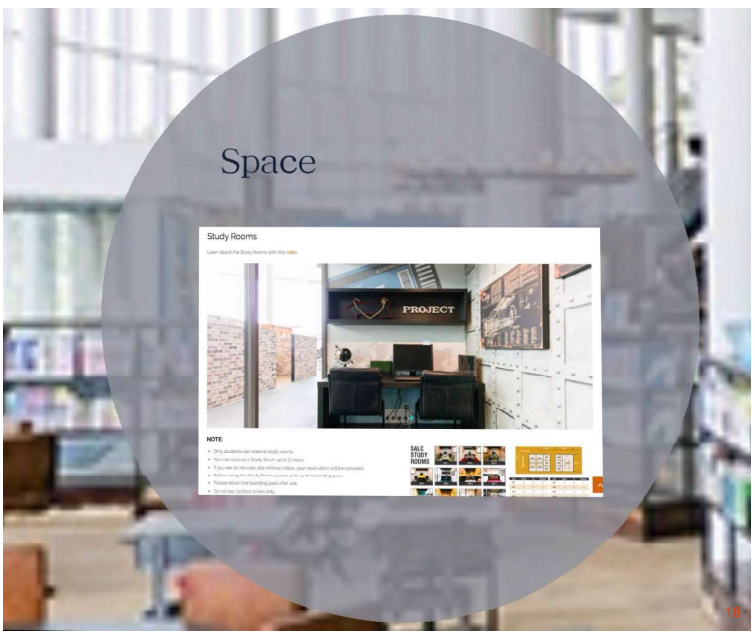

Peer Advising
SALC Peer Advisors
13

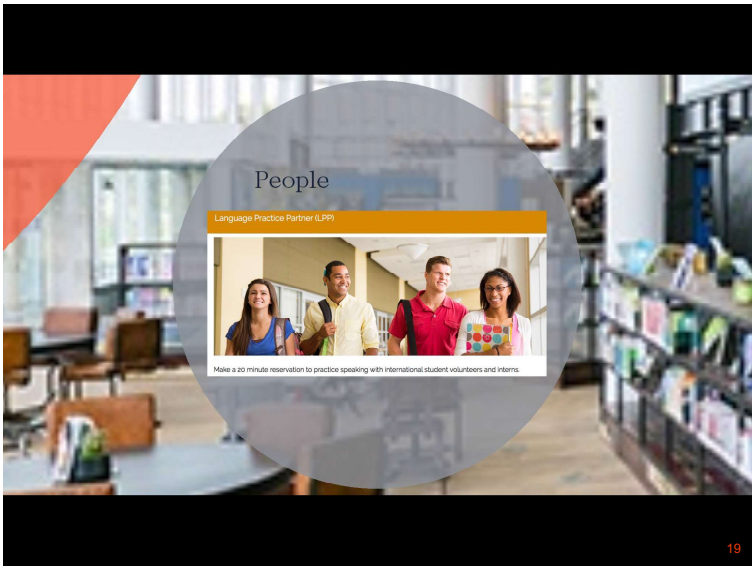

Written Advising
Feedback from your Learning Advisor
14

Resource
Materials
Resource Guides
Space
People
15


Materials
16

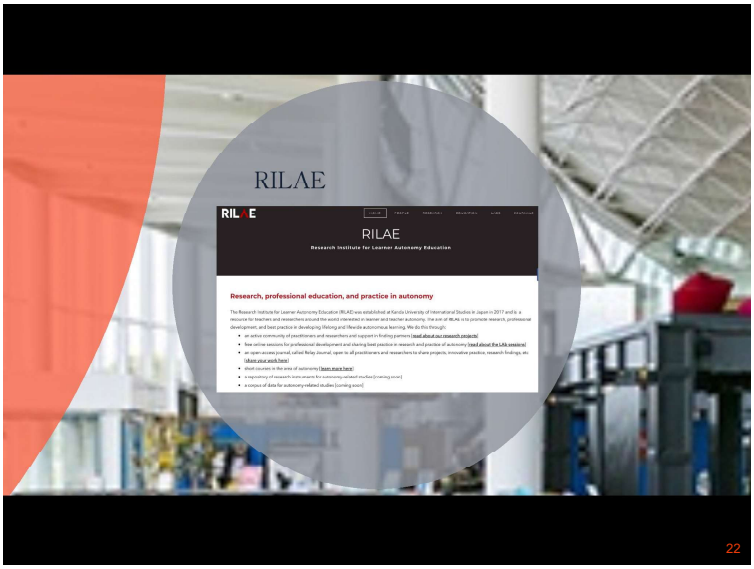
Resource Guides
Recommended Resources
17


Space
Study Rooms
PROJECT
18


People
Language Practice Partner (LPP)
Make a 20 minute reservation to practice speaking with international student volunteers and interns.
19

Research
SiSAL Journal
RILAE
20

SiSAL Journal
SiSAL Journal
Studies in Self-Access Learning
HOME
EDITORS/ADVISORS
CURRENT ISSUE
FOR AUTHORS
ARCHIVES
INDEXES
NEWS
STUDIES IN SELF-ACCESS LEARNING
SiSAL Journal
Origins
Open access commitment
SEARCH THIS SITE
Search
STUDIES IN SELF-ACCESS LEARNING
SISAL JOURNAL
Editors/advisors
21


RILAE
RILAE
Research Institute for Learner Autonomy Education
Research, professional education, and practice in autonomy
22

Learning Communities & Events
Learing Communities and Events
Makerspace
Workhops
23

Learing Communities and Events
LET'S START A SALC LEARNING COMMUNITY!
REGISTER
LET'S ORGANIZE A LEARNERS' EVENT IN THE SALC!
APPLY
Fall Semester 2017
24

Fall Semester 2017

25

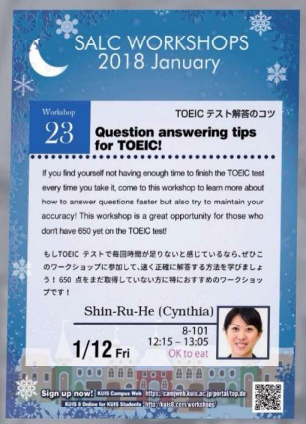
Makerspace

From: http://www.gettingsmart.com/2017/09/10-things-your-makerspace-needs/

26

27

Workhops



28

Future Visions

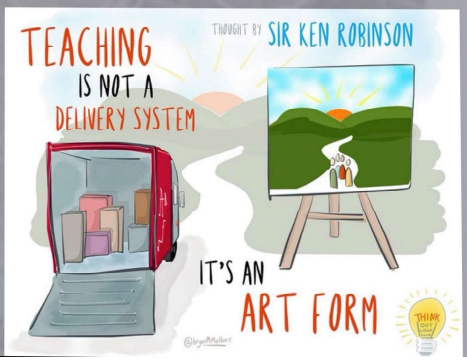
Ken Robinson - Do Schools ki...

Meet Yuhi

Thank you

29

Ken Robinson - Do Schools kill creativity?



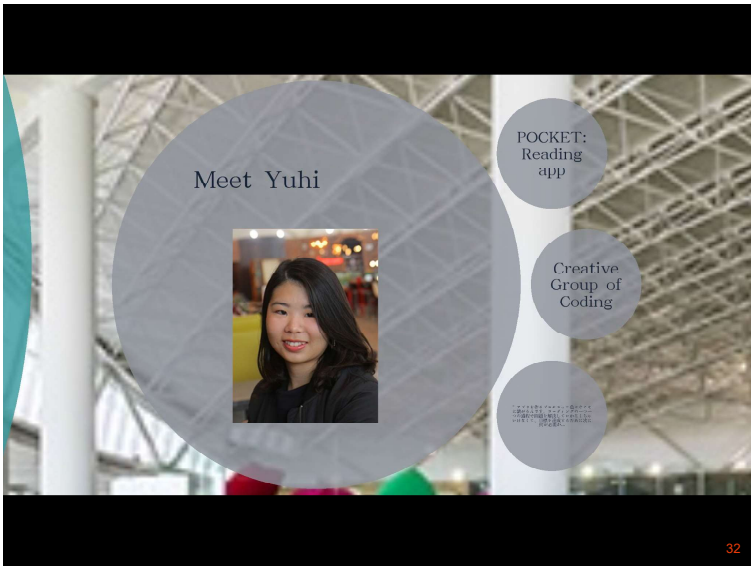
30

個人の才能を開花させる教育

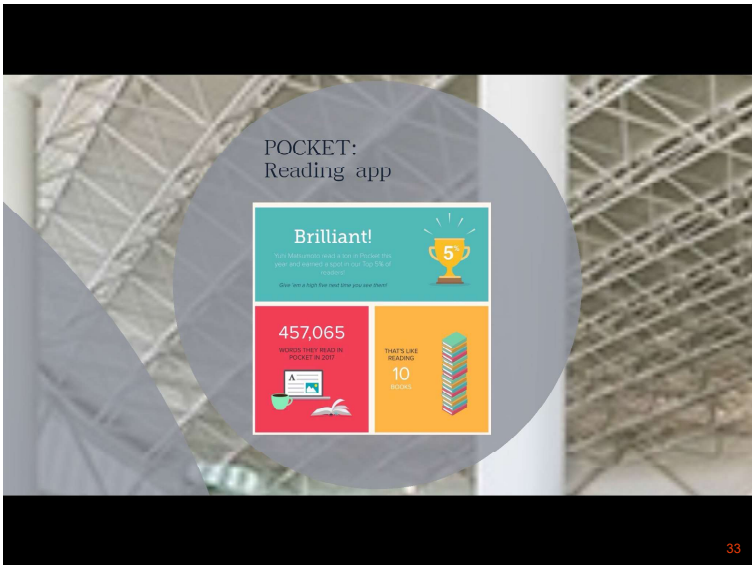
直線的、画一的、機械的、自動的

個別指導を特徴とするモデル、個々の状況や興味に合わせて教育を個別化する

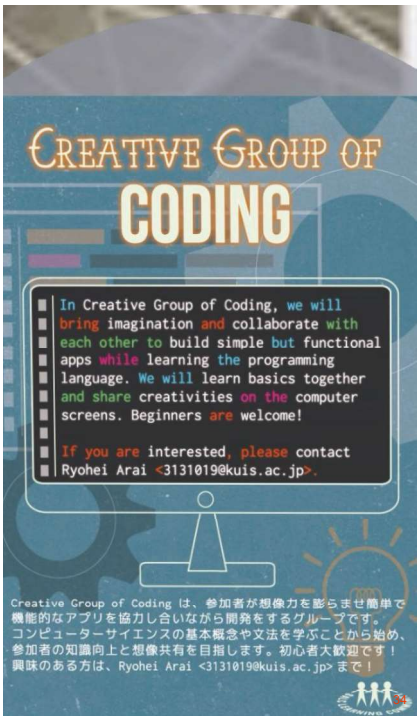
31



32



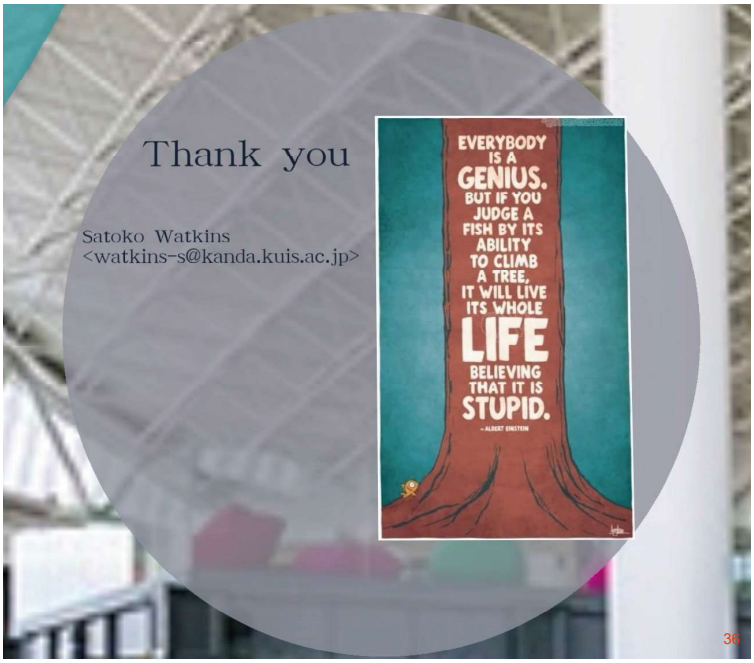
33



34

“アプリを作るプロセスって色々なことに繋がるんです。コーディングの一つ一つの過程で問題を解決していかなくちゃいけなくて、目標を達成するために次に何が必要かとか、どんなアプローチをとったらいいか、とか日常生活にも必要なことでしょ？”

35



36

報告

オンライン自律学習支援サイト
「OU 日本語ひろば」の構想について

義永　美央子
大阪大学国際教育交流センター
日本語教育研究チーム　教授

オンライン自律学習支援サイト「OU日本語ひろば」の構想について

大阪大学国際教育交流センター
日本語教育研究チーム
義永　美央子

国際教育交流センター(CIEE)

学内共同利用組織
留学生センターから国際教育交流センターへ

- 短期プログラム開発研究チーム
- 日本語教育研究チーム
- 交流アドバイジング研究チーム
- サポートオフィス

日本語チームのミッション

「教育」機能：留学生への日本語教育
　教育プログラム（主に「授業」）を提供し、
　学びの成果として単位を与える
　　正規学生（学部生・大学院生）
　　短期留学生
「支援」機能：大学構成員の日本語学習をサポート
　生活の質向上のための日本語学習支援（単位なし）
　日本語学習に関する情報提供
　　研究生
　　研究員・外国人の家族等
　　各部局等の支援者の支援

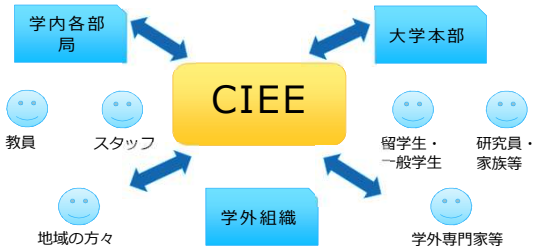
「センター」という組織を考える

center

留学生中心で、
いろいろなことを学びました

改めて、「センターの仕事」とは

国際教育交流の「中心」：「ハブ」としての機能



日本語教育に関する人・組織・情報・リソースをつなぐ

今のお困り（１）

提供できるリソース（人、授業コマ、教室etc）と
日本語学習ニーズのアンバランス：
十分な日本語学習機会が提供できていない
　学生の急増・受講者数の予測が困難
　複数のキャンパスの存在
　学籍のない大学構成員
そもそも、すべてのニーズに「教室」で対応するのは不可能
→「教室でやるべきこと」と
　「個人でできること」を整理する必要性

今のお困り（２） 7

制度・組織の複雑化

集中コース・選択コース
共通教育科目・国際交流科目・学際融合教育科目…

学部生・大学院生・特別聴講学生・特別研究学生・研究生・科目等履修生…

16研究科・６研究所・４図書館・20以上のセンター

相談の窓口が見えづらい

→日本語学習に関する情報・リソースの一元化

今後の方向性 8

・提供可能な「日本語教育」の質の向上

教育プログラム・カリキュラムの最適化
個々の教員の教授内容・教育技術の向上

・日本語学習のための情報・リソースの見える化＆一元化

・自律学習支援のための方策の検討

SALC、アドバイジング…

まず自分たちでできること 9

オンラインの日本語学習ポータルサイト

OU日本語ひろば（仮称）

OU日本語ひろばの構成（案） 10

1. 授業をさがす
2. 教材をさがす
3. 相談する
4. 日本語レベルチェック

授業をさがす 11

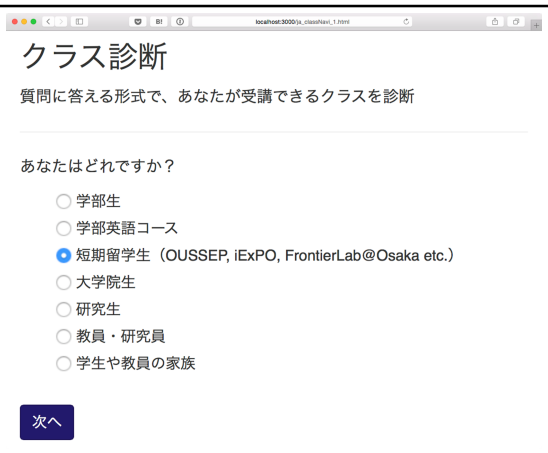
コース・クラス一覧

- 留学生日本語選択コース
- 学際融合教育科目・上級専門日本語
- 全学共通教育科目・日本語
- 国際交流科目「総合日本語（JA）」
- インターナショナル・カレッジ科目・日本語
- 留学生日本語集中コース

クラス診断

質問に答える形式で、あなたが受講できるクラスを知ることができます。

診断を始める



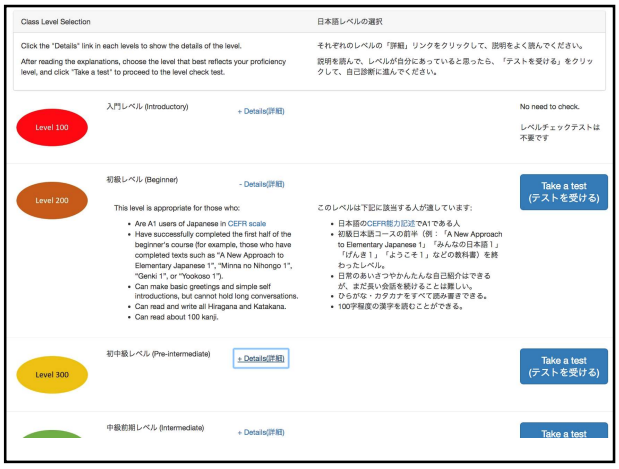
クラス診断
質問に答える形式で、あなたが受講できるクラスを診断
あなたはどれですか？
特別聴講学生
特別研究学生
次へ

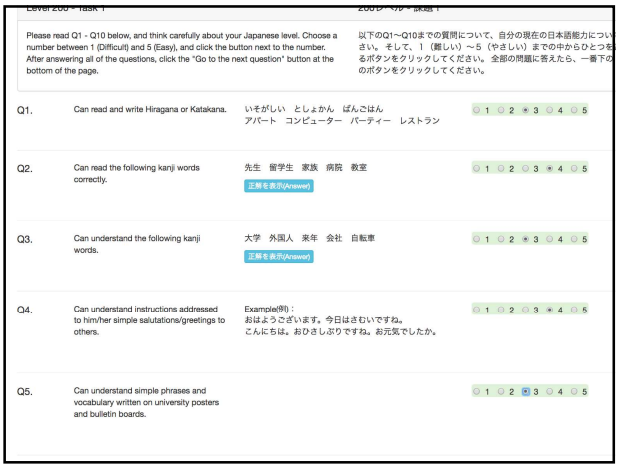
クラス診断
質問に答える形式で、あなたが受講できるクラスを診断
単位は必要ですか？
必要
不要
次へ

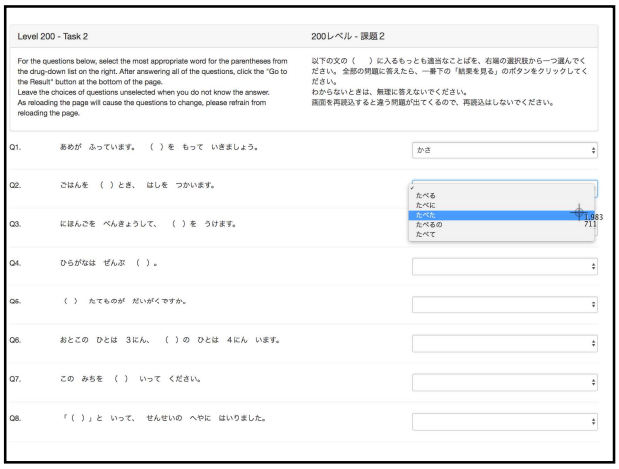
クラス診断
質問に答える形式で、あなたが受講できるクラスを診断
結果
国際交流科目日本語（JA100 - JA600）
国際交流科目日本語には、JA100からJA600までのクラスがあります。日本語レベルチェックで、自分に合ったクラスを探してみましょう。
日本語レベルチェック

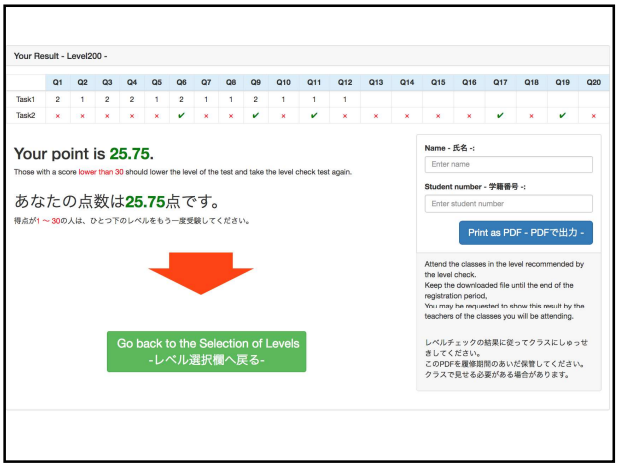
16
日本語レベルチェック
日本語
Japanese Proficiency Level Check
for CIEE Japanese Language Program
留学生日本語プログラム日本語レベルチェック
Guide 案内
Contact お問合せ

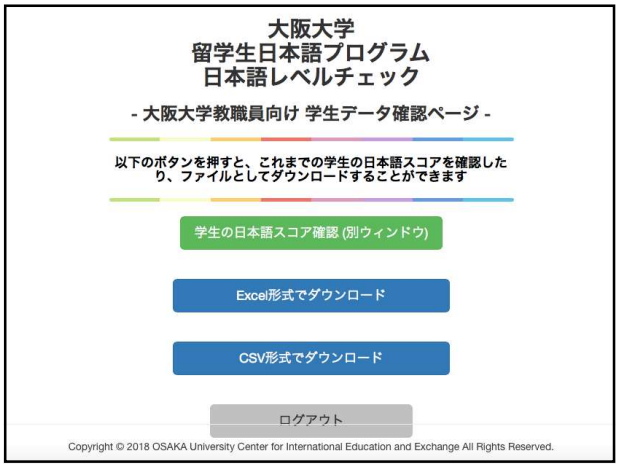
Osaka Univeristy International Student Center International Student Japanese Language Program Guidelines
-大阪大学留学生センター　留学生日本語プログラムガイドライン-
The following guideline(1) through (3) are the necessary conditions for applying to the International Student Japanese Language Program.Osaka Univeristy International Student Center International Student Japanese Language Program.Click the button below once you have read and fully understand the conditions.
次の(1)～(3)は、留学生日本語プログラムに申請するにあたって必要な条件です。よく読んで、了解できれば、下のボタンをチェックしてください。
(1)Course Attendance -コースへの出席-
Attendance throughout the entire period of the course is a prerequisite to applying for the course.Class absences are not only detrimental to the effectiveness of studying, but are also troublesome for other students.Those who plan on returning to their home country in the middle of the course cannot apply for the course.
コースの全期間にわたって出席できることがプログラム申請の条件です。欠席が多いと、学習の効果が得られないだけでなく、他の学生の迷惑にもなります。
Accept & Start -了解して開始-
Do Not Accept -了解できません-

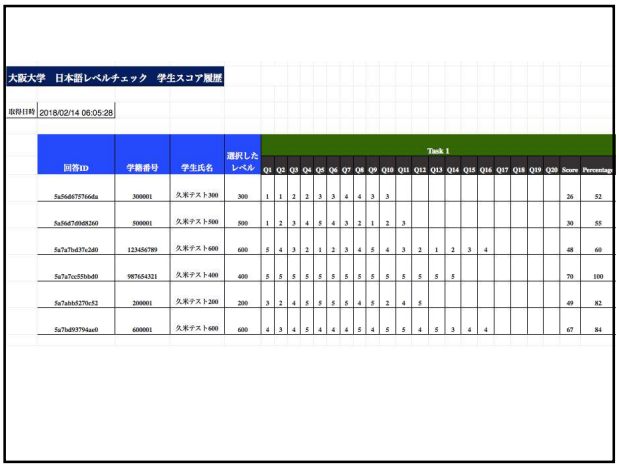

Class Level Selection
日本語レベルの選択
Click the "Details" link in each levels to show the details of the level.
After reading the explanations, choose the level that best reflects your proficiency level, and click "Take a test" to proceed to the level check test.
それぞれのレベルの「詳細」リンクをクリックして、説明をよく読んでください。
説明を読んで、レベルが自分にあっていると思ったら、「テストを受ける」をクリックして、自己診断に進んでください。
Level 100
入門レベル (Introductory)
+ Details(詳細)
No need to check.
レベルチェックテストは不要です
Level 200
初級レベル (Beginner)
- Details(詳細)
Take a test
(テストを受ける)
Level 300
初中級レベル (Pre-Intermediate)
+ Details(詳細)
Take a test
(テストを受ける)
中級前期レベル (Intermediate)
+ Details(詳細)
Take a test


Please read Q1 - Q10 below, and think carefully about your Japanese level. Choose a number between 1 (Difficult) and 5 (Easy), and click the button next to the number. After answering all of the questions, click the "Go to the next question" button at the bottom of the page.
以下のQ1～Q10までの質問について、自分の現在の日本語能力について考えてください。そして、1（難しい）～5（やさしい）までの中からひとつを選んでください。全部の質問に答えたら、一番下の「次へ進む」のボタンをクリックしてください。
Q1. Can read and write Hiragana or Katakana. いそがしい としょかん ばんごはん アパート コンピューター パーティー レストラン
Q2. Can read the following kanji words correctly. 先生 留学生 家族 病院 教室 正解を表示(Answer)
Q3. Can understand the following kanji words. 大学 外国人 来年 会社 自転車 正解を表示(Answer)
Q4. Can understand instructions addressed to him/her simple salutations/greetings to others. Example(例)： おはようございます。今日はさむいですね。 こんにちは。おひさしぶりですね。お元気でしたか。
Q5. Can understand simple phrases and vocabulary written on university posters and bulletin boards.

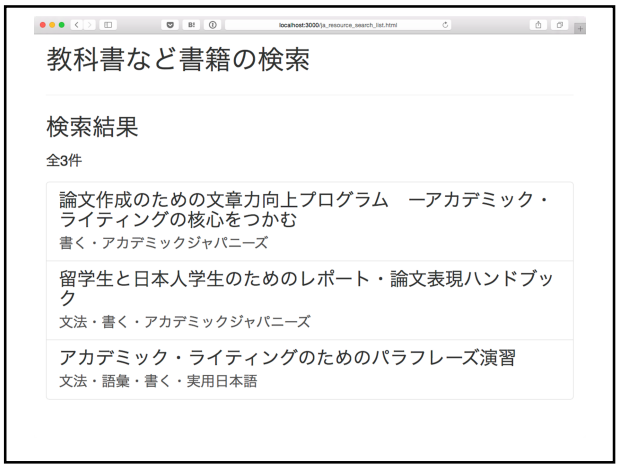

Level 200 - Task 2
For the questions below, select the most appropriate word for the parentheses from the drug-down list on the right. After answering all of the questions, click the "Go to the Result" button at the bottom of the page.
Leave the choices of questions unselected when you do not know the answer.
As reloading the page will cause the questions to change, please refrain from reloading the page.
200レベル - 課題2
以下の文の（　）に入るもっとも適当なことばを、右端の選択肢から一つ選んでください。全部の問題に答えたら、一番下の「結果を見る」のボタンをクリックしてください。
わからないときは、無理に答えないでください。
画面を再読込すると違う問題が出てくるので、再読込はしないでください。
Q1. あめが ふっています。（　）を もって いきましょう。 かさ
Q2. ごはんを （　）とき、 はしを つかいます。 たべる たべに たべた たべるの たべて
Q3. にほんごを べんきょうして、（　）を うけます。
Q4. ひらがなは ぜんぶ （　）。
Q5. （　） たてものが だいがくですか。
Q6. おとこの ひとは 3にん、（　）の ひとは 4にん います。
Q7. この みちを （　） いって ください。
Q8. 「（　）」と いって、 せんせいの へやに はいりました。


Your Result - Level200 -
Your point is 25.75.
Those with a score lower than 30 should lower the level of the test and take the level check test again.
あなたの点数は25.75点です。
得点が1 ～ 30の人は、ひとつ下のレベルをもう一度受験してください。
Go back to the Selection of Levels
-レベル選択欄へ戻る-
Name - 氏名 -:
Enter name
Student number - 学籍番号 -:
Enter student number
Print as PDF - PDFで出力 -
Attend the classes in the level recommended by the level check.
Keep the downloaded file until the end of the registration period.
You may be requested to show this result by the teachers of the classes you will be attending.
レベルチェックの結果に従ってクラスにしゅっせきしてください。
このPDFを履修期間のあいだ保管してください。
クラスで見せる必要がある場合があります。


大阪大学
留学生日本語プログラム
日本語レベルチェック
- 大阪大学教職員向け 学生データ確認ページ -
以下のボタンを押すと、これまでの学生の日本語スコアを確認したり、ファイルとしてダウンロードすることができます
学生の日本語スコア確認 (別ウィンドウ)
Excel形式でダウンロード
CSV形式でダウンロード
ログアウト
Copyright © 2018 OSAKA University Center for International Education and Exchange All Rights Reserved.


大阪大学 日本語レベルチェック 学生スコア履歴
取得日時 2018/02/14 06:05:28
回答ID 学籍番号 学生氏名 選択したレベル Task 1 Score Percentage
5a56d675766da 300001 久米テスト300 300 26 52
5a56d7d9d8260 500001 久米テスト500 500 30 55
5a7a7bd37c2d0 123456789 久米テスト600 600 48 80
5a7a7cc55bbd0 987654321 久米テスト400 400 70 100
5a7abb5270c52 200001 久米テスト200 200 49 82
5a7bd93794ae0 600001 久米テスト600 600 67 84

教材をさがす
24
localhost:3000/ja_resource.html
教材をさがす
教科書など書籍の検索
大阪大学オリジナル教材の検索
ウェブサイトのリンク集



まとめ 29

総合大学における「日本語担当教員」の役割

- 日本語を教える
- 日本語を学ぶための環境をつくる
  - アドバイジング
  - SALC
  - オンラインプラットフォーム

ご静聴ありがとうございました 30

本発表は、JSPS科研費
15K02639
および
16H03435
の支援を頂いて準備しました。

科研費 KAKENHI

全体討論

大学における言語学習と学習者オートノミーを考える

全体討論（16:10～16:55）：学習者オートノミーを育む言語学習とその支援

司会　大阪大学国際教育交流センター　准教授　難波康治

質問者１：リトル（2017）[1]の「授業での言語使用は学習者が主体的に自分の興味関心に基づいた本物のコミュニケーションを行えるようにする」について、ここでの「本物」とは？また学習者の興味関心を大事にすると授業の計画ができないのでは？

→青木：計画のできない授業をする勇気を教師は持つ必要がある。例えば、デンマークの小学校では、子どもたちが友達とグループを作って、グループごとにプロジェクトワークを行うような実践が報告されているが、教師はそうした学習者の興味関心に基づいた行動に、適宜関わっていくことになる。その原則に基づけば、一斉授業はできない。

質問者２：シラバス 15 回分を事前に書くことについてどう思うか。授業をどのように行うかは、実際の学生の顔ぶれを見ないと決められない部分が大きいと思うのだが。

→青木：その通りである。自分の場合は過年度の場合について説明し、今年度どうするかは受講生と相談する、と書いたこともある。（あとは「学生が選んだプロジェクトワーク」のように玉虫色に書く方法もある。）

質問者３：SALC に来る学生はどれくらいか。関心の低い学生にはどのようにアプローチするべきだと考えるか。

→ワトキンス：全体の学生数は 4,000 人。新しい SALC には一日 1,000 人、月に２万人ほど来る。SALC には他の学生と会うために来る学生もいる。「SALC を使っている」という定義が難しい。１年前の SALC の２～３倍が来ているのは、SALC の意義が広がったためである。学生の様々な興味に合わせて英語を使用して何かをしたいと考えている学生を支援する。前の SALC の方が好きだったという学生もいるが、前の SALC は英語だけに特化していた。今の SALC はカフェなどがあっていろいろな学生が来るようになり、来る

[1] Little, D. (2017). Language learner autonomy and plurilingual repertoires. Plenary talk given at 13th Nordic Workshop on Developing Learner Autonomy in Language Learning and Teaching, Helsinki University, 25 August 2017.

ことでラーニングアドバイザーと話して学習の方法や学習のコミュニティを知るなど、incidential learning の機会がうまれている。このようにして、もともと学習しようとは思っていなかった学生にターゲットを広げている。

→青木：実践共同体（community of practice）の理論から考えると、中心で活動する人たちだけでなく、周辺に止まりたい人にも居場所があるようなシステムをつくる必要がある。だから、来る学生が皆勉強をする必要はない。いろんな目的で来る学生がいてよいし、興味がない学生を無理やり来させる必要もない。

質問者 4：SALC の広報で工夫されている点は？

→ワトキンス：学生のリサーチアシスタント（RA）を雇い、SNS で情報を広めてもらっている。期間限定のキャンペーンを作って SALC のグッズをあげる、学校のサイトに情報を載せてもらうなどもした。しかし、ラーニングアドバイザーが直接声をかける、友だち同士が誘い合うなどの一人一人のつながりが一番強くて効果がある。

質問者 5：SALC ラーニングシステムの 11 人のアドバイザーはフルタイムか。カフェのコーヒーは有料か。

→ワトキンス：全員フルタイムで、希望すれば英語のクラスを担当することもできる 。一人の先生が約 50 人の学生とラーニングジャーナルのやり取りをしている。ミーティング（学生との直接の面談）も 1 回 30 分ではなかなか終わらないので、ミーティングや 50 人の学生への対応をしていると、フルタイムが 11 人いても忙しい。カフェは有料。

→青木：オープンスペースでアドバイザーと学生が遭遇して、そこで話をするのを見たことがある。出会いはアドバイジングセッションだけではない。

質問者 6：アドバイザーと学生のマッチングはどうなっているのか。アドバイザーは自由に変えられるのか。

→ワトキンス：一年生のクラスにそれぞれ一人のラーニングアドバイザーがつくが、その後変えることもできる。

質問者 7：学生のアドバイジングの経験を共有する仕組みや工夫はあるか。

→青木：学生たちがアドバイジングの成果を共有する手段として、グループでアドバイジングを行い、一人の学習者が行ったことを他の学習者が聞いて、自分のレパートリーを増やすという方法もある。だから、アドバイジングは必ずしも一対一でなければならないというわけではない。一対一のアドバイジングの良さももちろんあるが、グループでのアドバイジングでないとできないこともある。

→ワトキンス：11 人のアドバイザーの間で常に PD（professional development）セッションというものをしている。新しいリソースを共有したり、各自のアドバイスセッションを録音し、アドバイジングスキルに関するフレームワークなどを用いて分析したり、アドバイザー同士で意見交換を行っている。また常に新しいアドバイザーが入ってくるので、そのアドバイザーをトレーニングしながら自分もトレーニングする、といったこともしている。

→義永：阪大の図書館では大学院生のラーニングサポーターがおり、オンラインのグループで担当した事例についての情報交換をしたり、ロールプレイを用いた研修でアドバイジングの方法を学んだりしていると聞いている。

→青木：アドバイジングは実際にやってみて自分の技量を高めていくことが必要。紹介した参考文献にもアドバイジングに関するものがたくさん含まれているので、参考にしてほしい。

質問者 8：自分の関心の赴くままに学習を進めているというのは CLIL を自律的に実践しているということになるのではないか。神田外語大学には CLIL 的な授業があって、それによって学生の興味関心を引き出しつつ、さらに SALC でアドバイザーとともに学ぶといった融合が起きているのか。

→ワトキンス：３年生以上となると総合科目というものがあり、自分の興味のあるコンテンツを英語で学べる。それが神田の CLIL 実践のメインの形である。SALC のカリキュラムについては、CLIL のようにコンテンツに特化したもではなく、自律学習スキルの習得

がメインである。SALC アドバイザーと先生が共同で CLIL の授業を作成することは今のところない。SALC では学習をしている間に自分がどのような学習者になっていくか、どういう学習上の問題に遭遇しているか、といった学習の仕方にフォーカスをしている。

→青木：CLIL にはいくつか絶対に押さえないといけない条件があって、それを考えると、自律的な学習と CLIL での学習を両立させるというのはすごく難しい。CLIL は教師側が綿密にプランをたてて準備して始めて成り立つものなので。

質問者 9：神田外語大学の SALC 以外で言語や文化を教えている先生方とはどのように協力しているのか。

→ワトキンス：SALC の他にも MULC (multilingual communication center)などセンターはたくさんあり、新しくなった SALC は、他のセンターをリードしていくことが期待されている。学習者に最大のメリットがあるように、MULC と協力してイベントを開く、日本文化を伝えるセンターの先生に SALC に来てもらったりするなどしている。留学生別科では留学生の自律学習を教えているため、そこの先生方にアドバイジングのトレーニングをすることもある。

質問者 10：フォーマルなカリキュラムと SALC での学生たちの学習における当面の役割分担と将来的な役割分担についてどう考えているか。

→ワトキンス：１年生の場合、急に授業が全部英語になり、先生も日本人ではない。外国人の先生の場合、学生が自主的に動くと思っていることが多いので、クラスについていけない学生のサポートも、アドバイザーの仕事の一つと考えている。例えば１年生でのゴールが先生に質問できるようになること、といった学生もいる。またカリキュラムの中で TOEIC や TOEFL の基準点が設定されているので、それをクリアできる点数が取れるようにサポートすることもある。そして、１・２年生の場合は、今まで受験のために勉強していた英語を、自分のため、楽しいから学ぶものと考えられるようなプランをたてることもある。３・４年生になると英語をツールとして使いながらなりたい自分になるといった、学習者を育てるための指導になっていく。

質問者 11：学習者オートノミーを育てるためのクラスはあるのか。

→ワトキンス：ELM （クラスではなく、個々が自分の時間にやるモジュール）・ELLC のクラスが相当する。ELM/ELLC は単位（1 単位）あり。ELM の単位が出ない時は自律学習がしたいのに、単位のある授業の課題を優先し、コースが終了できないといったこともあった。ELM/ELLC は何度でも履修可能で、繰り返し履修するとメタ認知もどんどん向上していく。

→青木：オートノミーの評価は難しい。神田外語大学ではオートノミーを評価しているのか。

→ワトキンス：ELM の場合 Pass か、クラス登録がなかったことになる。

質問者 12：最後まで終えられなかった学生には先生方からの後追いがあるのか。

→ワトキンス：ELM を通しての自律学習よりも他のクラスの課題を優先する、という選択も学習者オートノミーであるけれども、学生によっては、多少のプッシュを必要とする場合もあるので、相手に合わせて「最近どうなの？」「アドバイジングしにおいでよ。」といった声掛けをすることもあるし、学生によって追いかける・追いかけないを選ぶこともある。

質問者 13：SALC に来なくなった理由はどのように見極めているのか。

→ワトキンス：アドバイジングセッションにはかなりの時間を使うため、学生の状況は分かるようになってくる。SALC で学生を見つけて話すことにより、学生の現状を把握する。しかし、学生が来なくなった場合は連絡がつかなくなる。イベントに誘って来てもらうなどして、学生と繋がれるようにしている。

質問者 14：教師オートノミーという言葉が印象に残ったが、教師が自由であるために最も大事なこととは。

→青木：大切なことはいくつもあるが、何が最も大切か即答できないので、懇親会でお話

ししましょう。（懇親会では、ナラティブ的知の存在を認めて、ストーリーを語ることが教師の実践知の表象として正当に評価されることが最も大切だと言いました。でも、他にも大切なことはたくさんあると思います。）

協議会風景

「第 11 回大阪大学専門日本語教育協議会」講演風景

講演 1

講演 2

報告

全体討論

質疑応答

会場全体

付録：過去の大阪大学専門日本語教育研究協議会の開催状況

１．第１回大阪大学専門日本語教育研究協議会：
「大学院レベルの専門日本語教育とは何か」
日時：2007 年 3 月 13 日（火）13：00～17：50
場所：吹田キャンパス IC ホール　留学生センター２階 Room５＆６

２．第２回大阪大学専門日本語教育研究協議会：
「大阪大学における専門日本語教育のさらなる定着に向けて
―留学生・指導教員とのディスカッションを通して―」
日時：2009 年 3 月 10 日（火）13：00～17：30
場所：吹田キャンパス IC ホール　留学生センター２階 Room５＆６

３．第３回大阪大学専門日本語教育研究協議会：
「専門日本語教育におけるライティング能力の養成
―留学生と日本人学生の双方に対する教育の共通課題―」
日時：2010 年 3 月 9 日（火）13：00～17：30
場所：吹田キャンパス　コンベンションセンター会議室１

４．第４回大阪大学専門日本語教育研究協議会：
「キャリア形成につながる専門日本語教育を考える」
日時：2011 年 3 月 8 日（火）13：00～17：00
場所：吹田キャンパス　コンベンションセンター会議室 1

５．第５回大阪大学専門日本語教育研究協議会：
「日本語教育のスタンダードの課題と展望」
日時：2012 年 2 月 15 日（水）13：00～17：00
場所：吹田キャンパス　コンベンションセンター会議室 1

6．第 6 回大阪大学専門日本語教育研究協議会：
「研究留学生のための専門日本語教育を考える」
日時：2013 年 2 月 19 日（火）13：00～17：00
場所：吹田キャンパス　コンベンションセンター会議室 1

7．第 7 回大阪大学専門日本語教育研究協議会：
「上級レベルの専門日本語教育　-理論と実践-」
日時：2014 年 2 月 17 日（月）13:00～17:00
場所：吹田キャンパス　IC ホール Room５＆６

8. 第 8 回大阪大学専門日本語教育研究協議会：
「グローバル時代を生き抜く力の養成と大学における日本語教育を考える
-大学から社会への橋渡しを視野に-」
日時：2015 年 2 月 17 日（火）13:00～17:00
場所：吹田キャンパス　コンベンションセンター 2 階 会議室 2

9. 第 9 回大阪大学専門日本語教育研究協議会：
「専門日本語教育における IT 活用の可能性」
日時：2016 年 2 月 16 日（火）13:00～16:55
場所：吹田キャンパス　IC ホール Room５＆６

10. 第 10 回大阪大学専門日本語教育研究協議会：
「内容言語統合型学習（CLIL）の実践に向けて」
日時：2017 年 2 月 21 日（火）13:00～17:00
場所：吹田キャンパス　IC ホール Room５＆６

11. 第 11 回大阪大学専門日本語教育研究協議会：
「学習者オートノミーを育む言語学習とその支援」
日時：2018 年 2 月 16 日（金）13:00～17:00
場所：吹田キャンパス　IC ホール Room５＆６